

くすりの科学 ～ 富山大学薬学実習 ～

- ◇期 日 令和2年8月5日（水）～8日（土）
◇場 所 富山大学薬学部（杉谷キャンパス）
◇参加者 2学年普通科理系生徒、理数科学科生徒 計14名
◇指導者 薬剤学研究室、薬品製造学研究室、分子合成化学研究室、応用薬理学研究室内の先生方と大学院生の皆さん

4日間にわたる富山大学薬学実習では、1日目と2日目に薬の合成実験、4日目には実際に合成した薬の効果を確認する実験を行った。また3日目には薬学部の施設を数多く見学させてもらった。

私たちは、7名ずつの2つの班に分かれ、一方は痛風に効果があるとされるプロベネシドについて、もう一方



はアレルギー症状を抑える効果があるとされるジフェンヒドラミンについて、薬の合成から薬理作用確認までの実験を行った。まだ化学を学び始めたばかりなので、授業で習っていない有機化学についてはわからないことが多かったが、実験の前に講義を受け、実験中にもTAの院生の方に丁寧に教えてもらったおかげで、理解を深めながらとても内容の濃い実習を体験することができた。

今年度は薬学部長の酒井教授のお力添えで、特別に和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館や薬学部付属薬用植物園に加え、様々な分野の研究室などを見学させてもらうという、とても貴重な経験ができた。民族薬物資料館では、生薬を中心とした展示について説明してもらい、世界の生薬の歴史や調剤法について教えていただいた。薬用植物園では、説明を聴きながら薬の原料となる植物の葉を実際に触り、匂いをかいだ。また、研究室見学では、遺伝子実験施設でゲノム解析の機器や蛍光顕微鏡を見たり、電子顕微鏡を使ってタンパク質分子やガン細胞を見せてもらったり、脳の神経をモニターする様子を見学して、薬学が物理・化学・生物・医療などにつながる多面的で多角的な学問だということがわかった。



この実習で“くすりを知る・創る・使う”という薬学部の教育目標に触れ、薬学に対する意識を更に高めることができた。また、TAの方々に勉強についてのアドバイスをいただいたり、薬学部での学生生活について教えていただいたりしたので、これからの勉強に対する意欲も高まった。この4日間は、とても有意義に過ごすことができた。お忙しい中、このような機会をつくってくださった富山大学の先生方や職員の皆様、TAの院生の方々には深く感謝申し上げます。

